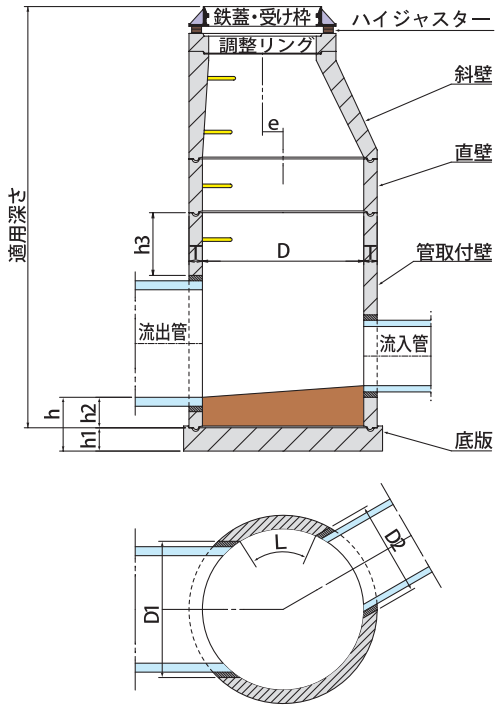
使用要領一覧表



製品使用範囲区別表

適用深さ	矢板の影響	管体の種類	使 用 製 品 の 概 要
5m以下	—	Ⅰ種標準	標準型を使用する
10m以下	—	Ⅱ種標準	壁厚さは変えないが、鉄筋量を約 1.7 倍増やした製品を使用する
5m以下	考慮する	Ⅰ種特厚	壁厚さを約 1.2 倍、鉄筋量を約 1.3 倍増やした製品を使用する
10m以下	考慮する	Ⅱ種特厚	壁厚さを約 1.2 倍、鉄筋量を約 1.3 倍増やした製品を使用する

注１.使用製品の概要は、Ⅰ種に対しての比較である。

基本寸法及び開口部関連寸法区別表

単位：㎜

種　別	内径	厚さ	偏心量	管底高	底版厚	インバート厚さ	削孔径	開口残り
	D	T	e	h	h1	h2	D1	L及びh3
0号（φ750）	750	75	40	300以上	130	170以上	410以下	100以上
							586以下	150以上
1号（φ900）	900	75	115	300以上	130	170以上	410以下	100以上
							644以下	150以上
							760以下	200以上
2号（φ1200）	1200	95	285 (265)	370以上	150	220以上	464以下	100以上
							760以下	150以上
							1002以下	200以上
							1150以下	250以上
3号（φ1500）	1500	112	415	370以上	150	220以上	464以下	100以上
							760以下	150以上
							1002以下	200以上
							1150以下	250以上
							1346以下	260以上

注１．２号マンホールのｅ寸法で（　　）の値は、直壁又は管取付壁の上に外径1390mmのスラブを連結してその上に１号マンホールを使用した場合である。
注２．３号マンホールのｅ寸法の値は、直壁又は管取付壁の上に外径1724mmのスラブを連結して、その上に１号マンホールを使用した場合である。
注３．開口の形状が角形の場合は、別途検討致します。